

滋賀大学大学院経済学研究科 経営分析学専攻

MBANコース

データを駆使した経営のプロフェッショナル養成

日本初の学位「MBAN(Master of Business Analytics)」を授与する専攻

MBAN/em'baen/noun

The Master of Business Analytics is a dynamic degree program designed to turn ambitious professionals into data-savvy leaders. It focuses on harnessing analytics to craft data-driven strategies, optimizing business decisions and powering transformative insights across industries.



Yoshida Yushi

吉田 裕司

大学院経済学研究科長・教授
財務省客員研究官

MBANで経営学と

データサイエンスの二刀流を目指す！

経済学研究科が令和6年度に新設した経営分析学専攻(MBAN: Master of Business Analytics)は、文部科学省が公募する「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」に本学の「データサイエンス×経済・教育(DS×E2)高度専門人材養成プログラム」が採択されたことによるものです。

MBANのコンセプトは、DX(digital transformation)を推進し価値創造に貢献できる、経営とデータサイエンスの二刀流人材「ビジネスサイエンティスト」の養成です。そのため、経済・経営系の科目に加えて、データサイエンス研究科からも多くの授業が提供されています。これらをバランス良く学ぶことで、ビジネスの現場の課題解決に必要な知識とスキルを修得することができます。そして、MBANでの学習・研究の集大成として、社会の様々な現場で生成されるデータや所属企業のリアルなデータなどを分析し修士の学位論文を執筆します。

MBANには多くの社会人院生が在籍しています。業種は金融、メーカー、IT、運輸、地方自治体など様々ですが、いずれの社会人院生も真剣にリスキリングに取り組まれています。経済学研究科でビジネスサイエンティストを目指してみようという皆様をお待ちしています。

MESSAGE

経済・経営領域のデータを 読み解き活用する力を育む専攻

滋賀大学のMBANプログラムは、ビジネス環境の変化に対応し、データと経営を結びつける新たな学びの場です。DXが進展する現代においては、データを活用した意思決定の重要性が高まっており、そうした実務に対応できる人材が求められています。

社会で求められているのは、単にデータを扱うスキルではありません。データの背後にある社会的・制度的・文化的構造を読み解き、その意味と活用の道筋を再構成できる力です。

経営分析学専攻では、経営データ分析に必要な経済・経営学の知識、戦略的意思決定力、社会的責任への理解、実践的な分析力、そしてAI・数理データサイエンスの基礎に基づく専門科目を配置しています。これらを通じて、「意味の読解」と「活用の設計」を両輪とし、人間社会を理解したうえで意思決定を支援し、価値を創造できる人材の育成を目指します。MBANは、経済・経営領域におけるデータ活用の力を育む専攻であり、ビジネス基礎力と数量的スキルを併せ持つ人材の育成を目指します。

Naito Takeshi

内藤 雄志

大学院経済学研究科
経営分析学専攻長・准教授



DX時代に求められる次世代経営人材向け学位

— データと経営をつなぎ、意思決定を通じて新たな価値を創造する —

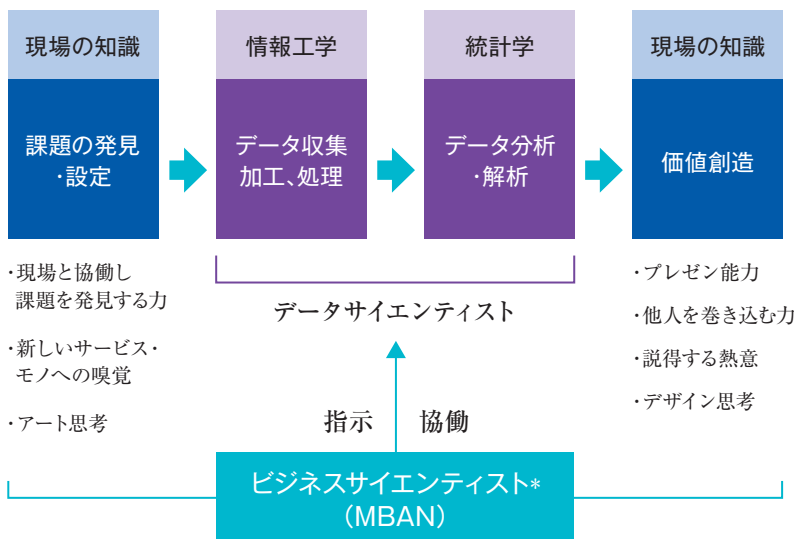
生成系AIの登場はビジネス界に大きな変革をもたらしています。さらに、企業におけるDXの進展も加速しており、ビジネス環境は大きく変化しています。しかしながら、こうしたビジネス環境の変化に対応できる人材の確保に不安を抱える企業も多いのではないのでしょうか。

そうしたニーズに応える、新しい大学院教育プログラムが滋賀大学で始まりました。経営分析学専攻は、英語ではMBANと呼ばれています。これはMaster of Business Analyticsの略で、ケーススタディーに特徴のあるいわゆるMBAとは異なり、データサイエンスを用いて企業や消費者などのデータを分析し、経済・経営の専門知識と組み合わせて業務革新をはかることを学ぶプログラムです。

経営・経済の知識にデータサイエンスの
実践的知識・スキルを融合



ビジネスに付加価値や競争力をつけることができる



データサイエンティストがデータの収集や分析をメインとするのに対して、**ビジネスサイエンティスト**はより幅広く、課題の発見から価値創造までをカバーします。データサイエンスの知識も有するので、その過程ではデータサイエンティストに指示を出したり、協働したりしながら、企業に新たな価値を生み出していきます。

これまで多くの企業では経営陣とデータサイエンティストの連携がうまくいかずに、多くの利益機会を逃してきています。だからこそ、DX時代にビジネスサイエンティストが必須なのです。経営分析学専攻(MBAN)では、データサイエンティストと協働し、新たな価値を創造できるビジネスサイエンティストを養成します。

*ビジネスアーキテクト、エンタープライズアーキテクトとほぼ同義。

学部のデータサイエンスコース履修生も含むが、大学院レベルのプログラムとして経営分析学を設定し、養成。

産業界からの声

ルゾンカ典子様

コスモエネルギーホールディングス株式会社
常務執行役員 CDO



ビジネス現場において即実践力となる、AI利活用に必要なDSスキルと経営知識の両方を習得できる斬新でバランスのとれた経営分析学コースですね。どの業界においてもAI/データドリブンな経営判断やビジネス課題解決力は必要とされています。期待しています！

小林 文彦様

伊藤忠商事株式会社
顧問



ビジネスの現場では、データと経営の融合がこれまで以上に重要になっています。MBANコースは、こうした時代のニーズに応える日本初の学位プログラムとして、実践的な知識と分析力を身につける絶好の場です。産業界は、ここで学んだ皆さんが次世代のビジネスリーダーとして活躍されることを大いに期待しています。

越智 道夫様

Dress Code株式会社
VP of Marketing

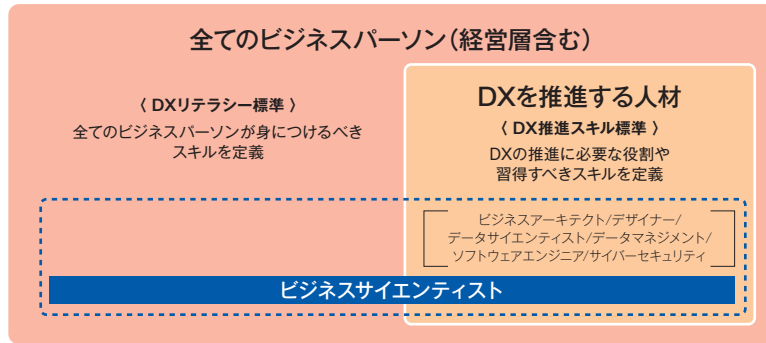


企業では、DXで競争優位を築く事に取り組みだしている一方、経営層と現場の知識の違いがDX化の障壁にもなっています。このMBANは経営への深い理解とエンジニアリングやデータの知識を持つ新時代のDXリーダーを輩出し、企業の成長を促進すると確信しています。

滋賀大学の育成するビジネスサイエンティスト

経済産業省のデジタルスキル標準では、すべてのビジネスパーソンが身に付けるべき能力・スキルとしてDXリテラシー標準が、そして、DXを推進する人材が身に付けるべきものとしてDX推進スキル標準が定められています。滋賀大学の経営分析学専攻で育成する人材は、まさにこの両者をまたぐものであり、これをビジネスサイエンティストと呼びます。

これは、経済産業省の示す人材類型に従えば、下の図の青い枠で囲まれた部分になります。



人材類型	ビジネスアーキテクト	デザイナー	データサイエンティスト	データマネジメント	ソフトウェアエンジニア	サイバーセキュリティ
役割 (DXの推進において担う責任、主な業務、必要なスキルにより定義)	ビジネスアーキテクト ビジネスアナリスト プロダクトマネージャー	サービスデザイナー UX/UIデザイナー コミュニケーションデザイナー	データビジネスストラテジスト データサイエンスプロフェッショナル	データスチュワード データエンジニア データアーキテクト	フロントエンドエンジニア バックエンドエンジニア クラウドエンジニア/SRE エンジンエンジニア フロントエンドエンジニア	マネージャー サイバーセキュリティ エンジニア サイバーセキュリティ

上記図表は経済産業省のデジタルスキル標準 (https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/skill_standard/main.html) をもとに滋賀大学が作成。

経営分析学専攻で育成する知識・判断力・実践力

経営分析学専攻は、経済学研究科とデータサイエンス研究科双方が提供する科目によってビジネスサイエンティストとして必要な知識・判断力・実践力を養います。紫の網掛け部分は、主としてデータサイエンス研究科から提供される科目が担う領域です。青の網掛け部分は、主として経済学研究科から提供される科目が担う領域です。

DXリテラシー標準策定のねらい

ビジネスパーソン一人ひとりがDXに関するリテラシーを身につけることで、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

スキルセット

Why DXの背景	What DXで活用されるデータ・技術	How データ・技術の利活用
社会の変化 顧客価値の変化 競争環境の変化	データ <ul style="list-style-type: none"> 社会におけるデータ データを読む・説明する データを扱う データによって判断する デジタル技術 <ul style="list-style-type: none"> AI クラウド ハードウェア・ソフトウェア ネットワーク 	活用事例・利用方法 <ul style="list-style-type: none"> データ・デジタル技術の活用事例 ツール利用 留意点 <ul style="list-style-type: none"> セキュリティ モラル コンプライアンス

マインドスタンス

デザインマネジメント実践 新たな価値を生み出す 基礎としてのマインド・スタンス	顧客・ユーザーへの共感	常識にとらわれない発想	反復的なアプローチ
	変化への適応	コラボレーション	柔軟な意思決定
		柔軟な意思決定	事実に基づく判断

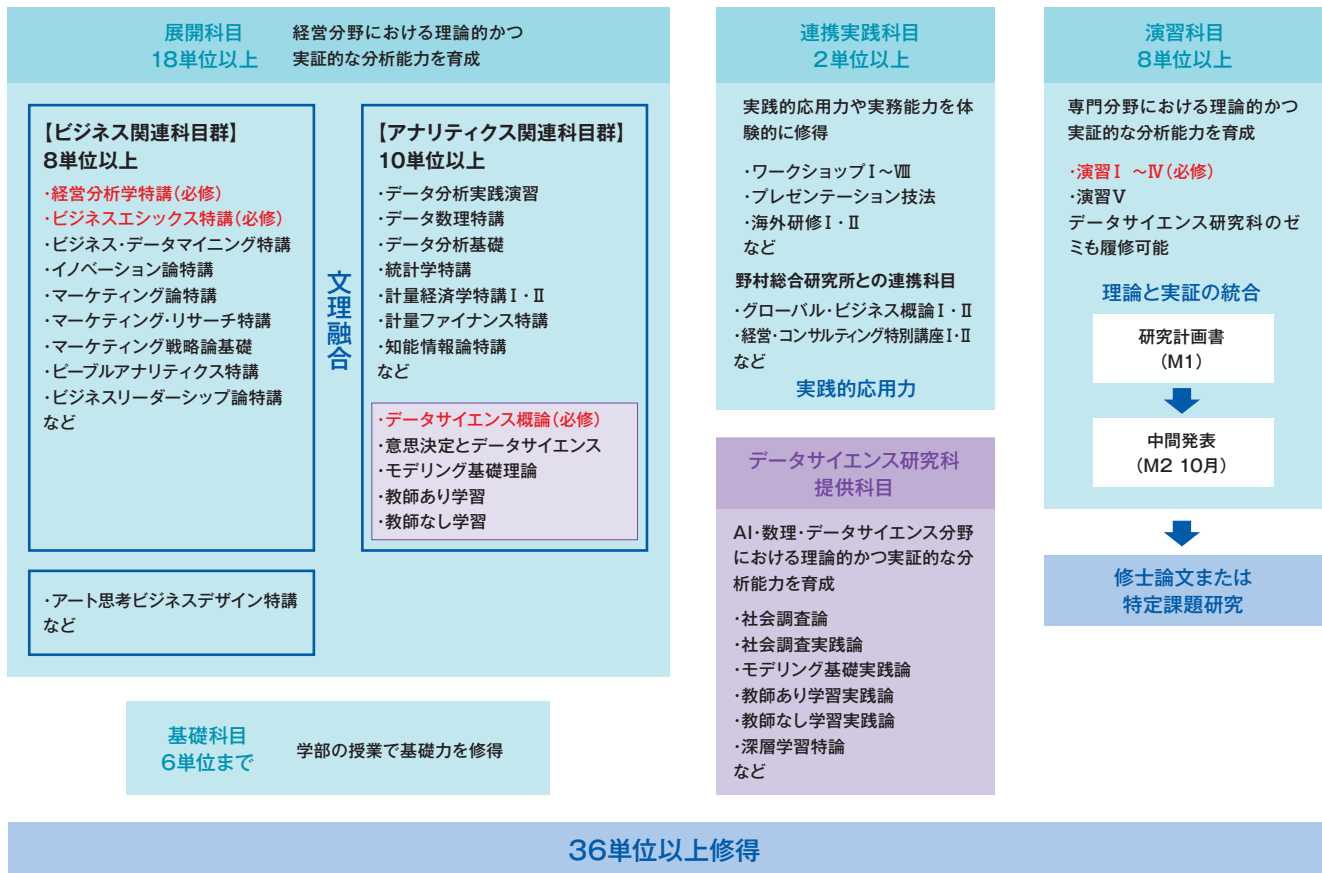
■ データサイエンス研究科で提供

■ 経済学研究科で提供

DX時代に対応する人材を育成するプログラム

— カリキュラムと修了要件 —

企業にはさまざまなデータが埋もれています。本プログラムは、DX推進担当やマーケティング担当に加え、人事労務管理や財務・会計分野など、幅広い分野においてデータを活用する力を高めたい皆様のキャリアアップを支援します。CMO、CFO、CHO*などの役割を担う人材に加え、現場において意思決定を支える多様な人材の育成を目指しています。



- 経営分析学専攻では、経営データ分析に必要な経済・経営分野の科目に加え、データサイエンス研究科の授業と連携実践科目を組み合わせることで、ビジネスの現場における課題を多面的に捉え、分析を実際の意思決定へとつなげる力を養います。
- 本専攻では、データの意味を読み解き、どのように活用するかを判断する力を重視し、技術と経営をつなぐ人材、例えば、DX推進担当者、マーケティングデータ分析担当者、人的資本情報分析担当者などの高度なデータ分析専門職能などの経営データ分析のプロフェッショナルの育成を目指しています。

※ CMO(Chief Marketing Officer:最高マーケティング責任者)
CFO(Chief Financial Officer:最高財務責任者)
CHO(Chief Human Officer:最高人事責任者)


充実した教育研究環境

滋賀大学は「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」拠点校であり、最新のワークステーションを備えた経営分析用の演習室が整備され、トップクラスの実務家教員を含む教育体制が用意されています。



履修モデル

経済・経営の専門科目とデータサイエンス系の科目をともに学ぶことができる文理融合のカリキュラムです。その中で、DX時代を意識したビジネスエシックスも必修科目としています。演習系科目では、専門分野における理論的かつ実証的な分析能力や実務能力を体験的に身につけることができます。履修モデルを参考に、将来の進路希望や在籍する企業の問題関心に応じて受講科目を選択してください。

履修モデル	マーケティング分析	アカウンティング・ファイナンス分析	人事労務データ分析
人物像	<ul style="list-style-type: none"> 商品企画職 広報企画職 最高マーケティング責任者(CMO) 	<ul style="list-style-type: none"> 経営企画職 経理財務職 最高財務責任者(CFO) 	<ul style="list-style-type: none"> 人事職(主に採用・評価) 人事アナリスト 最高人事責任者(CHO)
経済・経営の科目	<ul style="list-style-type: none"> 経営分析学特講 ビジネスエシックス特講 マーケティング論特講 マーケティング・リサーチ特講 マーケティング戦略論基礎 ビジネス・データマイニング特講 イノベーション論特講 など 	<ul style="list-style-type: none"> 経営分析学特講 ビジネスエシックス特講 企業分析特講 I、II 会計学特講 コーポレート・ファイナンス特講 I、II ファイナンス特講 証券分析とポートフォリオ・マネジメント特講 など 	<ul style="list-style-type: none"> 経営分析学特講 ビジネスエシックス特講 経営管理論特講 経営戦略論特講 マネジメント特講 ビジネス・データマイニング特講 ピープルアナリティクス特講 など
データサイエンス系の科目	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンス概論、データ分析実践演習、データ分析基礎、統計学特講、オペレーションズ・リサーチ特講、意思決定とデータサイエンス、教師あり学習、教師なし学習 など 		
演習・連携実践系科目	<ul style="list-style-type: none"> 演習 I～IV、経営・コンサルティング特別講座 I・II など 		
 <p>DX 時代にふさわしいデータと意思決定をつなぐ次世代経営人材</p>			
赤字は必修科目			

授業紹介



後藤 良介

大学院経済学研究科 教授
 専門: エネルギー経済学、経営データ分析

専門分野であるエネルギーを中心として、機械学習・統計学・数理最適化など定量的手法を適用し、企業の戦略や、望ましい社会システムについての研究に従事

講義紹介は動画でも
 ご覧いただけます。



経営分析学特講

本講義では、企業活動に関連する多様な情報を対象として、組織における課題を解決し、意思決定に結び付ける分析手法を身につけることを目的としています。近年、世界的には、経営分析学(Business Analytics)が注目されています。この学問では、実社会のビジネス課題を解決するために、機械学習・統計学・数理最適化などのデータサイエンス領域の手法を活用して、組織の意思決定や行動を促せる人材育成を目指しています。そこで本講義では、経営分析の基本に始まり、ビジネス活動の定量化、AI・機械学習、統計分析、数理最適化、意思決定論、自然言語処理、生成AIのビジネス活用といった多岐にわたるテーマを体系的に学ぶことで、広い視野でのビジネス分析スキルを育成します。これらにより、マーケティング、会計、人事労務など、様々なビジネス分野において横断的に課題に対処し、適切に判断する力を身につけます。尚、Pythonによるデータ分析を実習したい方は、「データ分析実践演習」を合わせて受講ください。

データ分析実践演習

本演習は、ビジネスにおけるデータ活用を想定した分析の実践的スキルを身につけることを目的としています。社会においてデータに基づいた意思決定の重要性が増す中、データを適切に分析し、事象の関係性を正しく把握するとともに、実社会での課題解決のためにAIを活用できる人材が求められています。本講義では、AI・機械学習で用いられるプログラミング言語Pythonによるビジネスデータ分析の手法を学びます。具体的には、課題設定、データ収集、可視化、統計処理、クレンジング、特徴量エンジニアリング、予測モデルの構築など、データ分析の一連の流れを身につけることで、ビジネス現場で直面する分析課題に対処できる力を養成します。最終的には、実データを用いて、機械学習による予測モデルの構築に挑戦し、データに基づく意思決定能力を高めます。



喜田 昌樹

大学院経済学研究科 教授
専門:経営学(ビジネスデータサイエンス)

喜田昌樹(2019)
『ビジネス・データマイニング[増補改訂版]』白桃書房
喜田昌樹(2023)
『ビジネス・データサイエンス入門』白桃書房

講義紹介は動画でも
ご覧いただけます。



ビジネス・データマイニング特講

この講義では、経営戦略論およびビジネスの世界で、データマイニング(AI)の基本的な知識と実例と利用法を習得することを目標とします。データマイニングとは、企業内に蓄積されたデータよりビジネス上の仮説を発見する方法であり、最近注目されているAIに進化しています。このような手法は現在多くの企業で導入されており、国際的な企業(グーグル、アマゾン等)においてもその動向は同じです。そこで、この講義では、企業での実例とともにその利用法を説明します。最近話題になっている組織科学および経営学領域もしくはビジネスでのデータサイエンティスト(AI人材)になるための基礎を習得することを目的とします。



神長 伸幸

大学院経済学研究科 非常勤講師
独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
職業能力開発総合大学校 准教授
専門:教育心理学

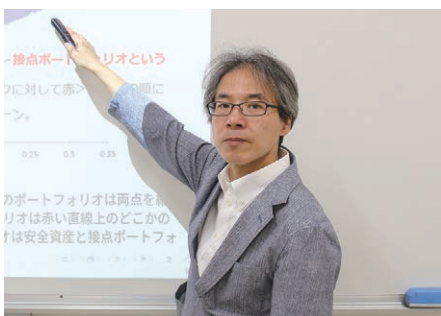
視覚認知や言語理解、VR環境でのコミュニケーションなどの基礎研究に従事した後、企業研究所で転職のマッチングに関わる研究を行う。現在は職業訓練指導やキャリア形成支援を対象に心理的特性のアセスメント方法の検討を行っている。

講義紹介は動画でも
ご覧いただけます。



ピープルアナリティクス特講

この授業では、ピープルアナリティクスを活用した人的資本経営の基本的な概念と価値を理解し、実務運用に必要な分析方法を習得することを目的とします。ピープルアナリティクスを活用しながら、人的資本経営を進めるために必要な分析案を提案できることが到達目標です。ピープルアナリティクスは企業経営で生じる様々なデータを活用して人材マネジメントにおける意思決定の精度や業務効率・従業員への提供価値を向上させる手法です。近年注目されている手法ですが、本邦では未だ先駆的な試みが行われているのみで、普及に向けてはピープルアナリティクスの手法の価値と実践的な方法を習得した人材の育成が必要です。本科目では、ピープルアナリティクスの枠組み並びに実務例を解説して、基礎的な理解を深めます。さらに、データ分析を体験しながら実務に必要なデータ分析の技術習得を目指します。



菊池 健太郎

大学院経済学研究科 准教授
専門:金融工学

金融工学の領域において、資産価格の確率モデルの構築と金融市場データを用いた実証分析に取り組んできた。近年は、金利や株式リスクプレミアムの期間構造の解析を主要な研究テーマとしている。

ファイナンス特講

ファイナンス理論とは、企業や投資家が不確実な環境のもとで、資金調達、投資、リスク管理に関する意思決定を行うための枠組みです。本講義では、その柱の一つである投資理論に焦点を当て、データ分析の手法と結びつけながら学びます。前半では、金融資産のリターンとリスク、ポートフォリオの考え方、数学・統計学の基礎を学習し、期待リターンとリスクの関係を表す代表的なモデルであるCAPM(資本資産評価モデル)の理論と実証分析法を理解します。CAPMは、株式などの金融資産の評価だけでなく、企業価値評価や投資判断に用いられる資本コストの推定にも応用されます。後半では、CAPMの限界をデータで確認し、発展モデルであるファーマ=フレンチの3ファクターモデルを学びます。さらに、ベイズ統計学を通じて、パラメータの不確実性や投資家の見通しをモデルに取り込む考え方も扱います。企業財務、投資評価、リスク管理の実務において、データに基づく評価や不確実性下の意思決定に関心のある方に有用です。

教員紹介

経営分析学専攻(MBAN)担当教員

研究科長

専攻長



吉田 裕司(教授)
国際金融/国際経済



内藤 雄志(准教授)
数理計画/
協力ゲーム理論



大瀨 巖(准教授)
統計学



岡本 大輔(特任教授)
計量経営学/企業評価論



岡本 哲弥(教授)
商学(マーケティング論)



小野 善生(教授)
経営学/経営組織論



金谷 太郎(准教授)
ファイナンス/計量経済学



菊池 健太郎(准教授)
金融工学



喜田 昌樹(教授)
ビジネスデータサイエンス



後藤 雅敏(特任教授)
財務会計/会計情報論/
実験会計



後藤 良介(教授)
エネルギー経済学/
経営データ分析



近藤 紀章(講師)
都市デザイン/
土木計画学



澤木 聖子(教授)
人的資源管理/
異文化間マネジメント



新久 章(准教授)
統計学/計量経済学



陳 韻如(教授)
経営戦略論/
組織関係論



富田 健一(准教授)
符号理論



中津 陽介(講師)
組織行動論/
人的資源管理論



中野 桂(教授)
経済政策(産業組織論)



村松 郁夫(准教授)
コーポレート・ファイナンス



山下 悠(准教授)
商学/ビジネスエコノミクス



渡邊 凡夫(教授)
人文社会情報学

経済学研究科教員

青柳 周一(教授)
日本史

嘉藤 慎作(准教授)
グローバル経済史

清宮 政宏(教授)
商学/マーケティング

林 孝宗(教授)
商法/会社法

宗野 隆俊(教授)
社会法学

赤塚 尚之(教授)
財務会計

金山 知明(准教授)
公法学(税法)

竹村 幸祐(教授)
社会心理学

坂野 鉄也(教授)
歴史学

森 宏一郎(教授)
環境政策/医療政策

阿部 安成(教授)
日本史

可見島 達夫(准教授)
会計学

田中 勝也(教授)
環境経済学/空間データ解析

福浦 厚子(教授)
文化人類学

山田 和代(教授)
経済政策/日本労働史

石井 利江子(教授)
産業組織論

川崎 兼人(准教授)
政治経済学/理論経済学

田中 英明(教授)
理論経済学/信用機構

府内 直樹(教授)
行動ゲーム理論

横山 幸司(教授)
地方自治/行政経営改革

井上 俊克(講師)
マクロ経済学

金 秉基(教授)
経済政策/経済開発

谷上 亜紀(教授)
実験心理学/認知心理学

松下 京平(教授)
環境経済学/農業経済学

和田 佳之(准教授)
環境経済学/公共経済学

大橋 良生(教授)
会計学

近藤 豊将(教授)
理論経済学

谷川 義行(准教授)
ミクロ経済学/一般均衡分析

松田 有加(教授)
財政学/租税システム

神長 伸幸(非常勤講師)
教育心理学

大村 啓喬(准教授)
国際関係論

坂田 雅夫(教授)
国際法学

鍋倉 聰(教授)
社会学/地域研究

松田 有加里(准教授)
会計学

小倉 圭(准教授)
スポーツ科学

佐野 洋史(教授)
医療経済学

野田 昭宏(教授)
会計学

御崎 加代子(教授)
経済学説/経済思想

笠井 直樹(准教授)
監査論

柴田 淳郎(准教授)
経営学/企業統治

能登 真規子(教授)
民事法学

宮西 賢次(准教授)
会計学/財務諸表分析



山下 優貴さん

在学生

2025年度入学

出身大学・学部名:

滋賀大学経済学部(5年一貫制での内部進学)

学部では計量経済学を専攻し、マクロ経済データを扱う研究に取り組んでいました。一方で、経営課題の解決により強い関心があったため、ビジネスに特化したデータサイエンスを学べるMBANコースに進学。入学後はデータサイエンス研究科のサポートのもと、統計学から機械学習・大規模言語モデルまで、課題解決の手法を広げることができました。また、経済・経営の専門科目では、社会人院生の方々との議論を通じて、「分析結果をいかに意思決定へつなげるか」という視点を養いました。研究やその他のプロジェクトにおいても、ビジネスインパクトを意識して議論できるようになったことは大きな成長です。業界や職種の異なる院生の皆さんの経験を元に、学びをビジネスの文脈で捉え直せることは、MBANの大きな魅力だと感じています。

修了後はコンサルティングファームでデータ・AIを活用した課題解決に取り組み、価値創出ができる人材をめざします。



前田 謙之さん

在学生

2025年度入学

派遣企業・部署名:

あいおいニッセイ同和損保
人事部 人財革新グループ

損害保険会社で営業部門などの現場業務を経験する中で、データ活用の重要性を強く実感し、より体系的に学びたいと考えてMBANに進学しました。MBANでは、経済・経営の知見を基盤に、統計学や生成AIなどの先端技術を組み合わせ、実務にどのように生かすかを多角的に学べる点が大きな魅力です。企業出身の教授からは、社内にあるデータを活用可能な形に整備する難しさや、分析結果を現場に伝え、実際の行動変容につなげるための工夫など、実践的でリアルな知見を得ることができました。また、行政機関や金融、通信、製造など多様な業種の社会人学生との議論は新たな気づきを与えてくれ、自主ゼミでは基礎から応用まで主体的に学ぶ機会が豊富にあります。文系出身でも安心してデータサイエンスに取り組める環境が整っており、理論と実務を往復しながら理解を深められる点も大きな特長です。

MBANで培った力を生かして、データと現場をつなぐ「翻訳者」として新たな価値創出や社会課題の解決に幅広く貢献していきたいと考えています。



溝口 雄斗さん

修了生

2024年度入学 2025年度修了

派遣企業・部署名:

近鉄グループホールディングス株式会社
総合政策本部デジタル戦略部

派遣社会人として、2年間MBANでの学びに努めました。企業では主にデータ活用推進を担当してきましたが、分析結果を出すことと、それを現場での成果に繋げることに、大きな「壁」があることを日々痛感していました。MBANには、まさにその壁を突破するためのプログラムが用意されていました。データサイエンス研究科では最先端の分析技術を、経済学研究科ではそれを実務に活かすための組織開発や経営戦略を学ぶことで、技術とビジネスを橋渡す力を養うことができたと感じています。企業経験豊富な教授陣によるビジネス視点での講義、特に生成AIを駆使したデータ活用や業務改革を議論・実践する授業は非常に刺激的でした。また、教授、現役学生、他の社会人学生との交流を通して、自身の視野とネットワークを広げられたと感じています。実際に、滋賀大学で出会った同業他社の方との業務連携も実現し、生涯の財産となる人脈を得ることができました。

本学で得た知見や人脈を活かし、今後はデジタル活用を牽引する人材として活躍していきたいと考えています。

Q & A

Q1 なぜ日本で最初に滋賀大学大学院経済学研究科に経営分析学専攻(MBAN)ができたのですか？

A1 経営分析学専攻(MBAN)には、経営学とデータサイエンスの実践的なスキルが必要です。滋賀大学には伝統ある経済学部・研究科と日本のデータサイエンス教育・研究をリードするデータサイエンス学部・研究科が同じ彦根キャンパスにあります。このような恵まれた環境のなかで、MBANは両研究科の強みを生かした文理融合型のプログラムとして誕生しました。

Q2 経営学修士(MBA)と経営分析学修士(MBAN)の違いを教えてください。

A2 経営学修士(MBA)は大学院によって違いはありますが、MBAのパイオニアであるハーバード・ビジネス・スクールが開発したケースメソッドと呼ばれる教育手法が、多くのビジネススクールに採用されていますので、一般的にはMBAは理論やケーススタディを重視します。経営分析学修士(MBAN)では、授業を通じた経営に関する学修だけでなく、実データの分析などデータサイエンスの実践を重視しているため、実社会や実務の現場により近い実践的な学びであるという点にMBAとの違いがあります。マーケティングやファイナンス、人事労務管理といった領域・職務においても、データを活用し分析できる実践的なスキルを修得することを目指します。

Q3 MBANには企業から派遣された院生が多く入学していると聞きました。入学者の属性について教えてください。

A3 これまで多くの社会人経験者が入学し、業種は金融、メーカー、IT、運輸など様々です。職種も営業、マーケティング、経営企画、人事など多岐にわたります。年齢層も幅広いですが、30歳前後の方が多く入学しています。将来、経営企画を担う人材として企業から派遣された方も在籍しています。

Q4 所属している企業の課題解決につながる研究を行いたいと考えています。社内で保有するデータを用いて修士論文又は特定課題研究を作成することはできますか？

A4 研究テーマや指導教員にもよりますが、所属企業の課題解決や問題関心に即して社内データを用いた修士論文や特定課題研究を作成することができます。特に、企業などにおける特定の課題について、問題解決に導いたり、提案をしたりするタイプの研究や論文は、特定課題研究に相応しいといえます。経営分析学専攻(MBAN)で学んだことを企業に持ち帰って生かしたいという院生は多く、大学院で深く学び、多くの人と交流するなかで新たな発見やアイデアを得ることが期待されています。

Q5 入学後、どのくらい講義や研究に時間を費やす必要がありますか？
夜間や土日だけで修了することはできますか？

A5 1年目は授業を多く受ける必要がありますので、基本的には彦根に通学する必要があります。2年目は必要な単位が修得できている場合は職場に戻って修士論文等に専念することもできます。ただし、必要に応じて研究指導を対面で受けるなど、彦根に通学する必要が生じることもあります。夜間や土日の通学だけで修了することはできません。なお、授業は半期で15回実施する形態や1週間集中で開講する形態があります。

Q6 授業料はどれぐらいかかりますか？

A6 検定料が30,000円、入学金が282,000円、授業料が年額535,800円です。その他、傷害保険料などの諸経費が必要になります。詳しくは入試課までお問合せください。

入試等の制度のご案内

修学支援制度

授業料等

専攻:経営分析学専攻
定員:6名
キャンパス:滋賀大学彦根キャンパス
学生納付金:入学金/282,000円(予定)
授業料/535,800円(予定)

※上記に加え、傷害保険等の諸経費が必要となります。

長期履修学生制度

この制度は、職業を有している等のために標準の修業年限で修了することが困難な学生を対象としています。事情に応じて標準の修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修学生として認められた場合の授業料は、標準の修業年限分の授業料総額を、あらかじめ認められた一定の修業年限で除した額にして、それぞれの年に支払うことになります。

奨学金制度

大学院経済学研究科経営分析学専攻奨学金制度

この奨学金制度は、優秀な学生に学業に専念してもらうために設立された経済学研究科独自の制度です。

概要等

支援内容…入学年の1年間に対する奨学金の給付(年額100万円)

採用人数…2~3名程度(入学試験・成績優秀者) ※返済不要

対象…一般入試及び推薦入学志願者

本学では、日本学生支援機構以外に、都道府県の教育委員会や地方公共団体及び財団法人等の奨学金について、貸与・給付ともに取り扱っています。

入試制度

選抜種別	選抜方法	出願期間	試験日程
一般入試	筆記試験2科目 (内1科目については統計検定の成績を利用する) 口述試験	【夏季募集】 令和8年 8月20日(木) ↓ 8月26日(水) 16時	【夏季募集】 令和8年 9月10日(木)
推薦入試	口述試験		
社会人入試 (一般社会人)	筆記試験1科目 口述試験		
社会人入試 (熟年社会人)	経営分析学専攻の募集はありません		
社会人入試 (派遣社会人)	口述試験	【冬季募集】 令和8年 12月16日(水) ↓ 12月22日(火) 16時	【冬季募集】 令和9年 1月23日(土)
外国人留学生入試	筆記試験1科目 口述試験		

※出願期間など変更する場合がありますので、本学ホームページで確認してください。

※一般入試、社会人入試(一般社会人)及び外国人留学生入試においては、出願時に、一般財団法人 統計質保証推進協会の実施する統計検定2級の試験結果レポート(準1級以上合格者については合格証)の提出を必須とします。

入試情報サービス

受験案内、合格速報、出願状況、お知らせなどを提供しています。

入試情報ホームページ <https://www.shiga-u.ac.jp/admission/>



QRコード
※対応するスマートフォン・
携帯電話で読み取れます。
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

●入試について

入試課 入学試験係

TEL:0749-27-1023

Email: nyuushi@biwako.shiga-u.ac.jp



お問い合わせ

滋賀大学大学院経済学研究科

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1-1

TEL 0749-27-1030

E-mail: ksyomu@biwako.shiga-u.ac.jp